

みんなで災害に強いまちづくりに参加しよう！ 安城市地区防災計画策定事業 東端町内会活動レポート

令和3年度、東端町内会では、安城市の地区防災計画策定事業に取り組みました。4回のワークショップの中で、地域の不安や防災のアイデアをみんなで出し合い、これをもとに来年度以降に町内会で取り組む防災プログラムを考えました。

ワークショップ 1 「地区の特性を診断する」



多くの災害で支援経験のあるレスキューストックヤードの栗田さんからお話をお聞きました。「東端町では、
①南海トラフ地震で震度6強の揺れ
②矢作川の決壊では最大3～5mの浸水
が予測されている。(特に過去の災害では高齢者や障がい者が逃げ遅れたり、避難生活で体調を崩し災害関連死へとつながったりした。)
自分で助けを求められない方を地域でどう支えるかが重要」

ワークショップ 2 「地域の強みと災害時の課題を抽出する」

1. 地域の強み

「農村地帯で野菜が手に入りやすい」「地域活動にみんな協力的」「住民が情に厚い」など。

2. 災害時の課題

- ①適切な避難行動（タイミング・経路・方法・場所）
- ②高齢者や障がい者、子ども、外国人などの避難行動要支援者の避難誘導の方法
- ③避難所のイメージづくり・安心できる避難所運営の検討



ワークショップ 3 「防災活動」メニューのアイデア出し



1. 適切な避難行動には
「防災ラジオを使った情報収集」「家庭での防災グッズの蓄え」など
2. 避難行動要支援者の誘導には
「多言語の防災用語講座」「リヤカーや板など移送手段の確保」「近所で声かけできる人の把握」など
3. 避難所については
「防災食の作り方」「避難所設置のイメージづくり」などのユニークなアイデアが多数出されました。

ワークショップ 4 「防災活動メニューの企画書の作成」

防災メニューのアイデアをもとに、「どうしたら興味を持ってもらえるだろう?」「実際の災害で役立つ内容にしたいね」など、楽しみながらも真剣に意見を言い合い、**6つの企画書**ができました。



企画書は次のページ

東端町内会でこれから取り組む防災企画

みんなで考えた6つの企画の中から、向こう3カ年で取り組みたいものをみんなで投票しました。順位の高いものを参考にしながら、東端町内の防災企画を進めます！

順位	企画のなまえ	概要
1位	避難所の在り方と運営を体験しよう レットライ！	在宅での避難生活体験として、1週間分の備蓄品チェックと屋外テントや仮設トイレづくりの体験を行う。避難所体験では、防災倉庫の確認や間仕切りの設置などを行う。
2位	非常食を食べよう！	避難訓練の一環として非常食づくりを行う。町内会を中心に防災のメンバーを募り、組織づくりをした上で、必要な道具や調達方法を検討し、字ごとに日時等を決めて取り組む。
3位	避難生活の長期化における体調管理	ドクターにアドバイスをもらい、「健康チェックリスト」を作成。地元中学生にはリフレッシュゲームを考えてもらうと共に、町民みんながラジオ体操を習得できるよう育成する。
4位	安心できる避難所の配置	避難所となる施設の図面を入手し、避難所に必要なスペースや機能を検討。レイアウト図を作成し、訓練の中で実際に設置・運用できるか確認する。
5位	避難の早期実施	防災ラジオの設置状況の調査を行い、未購入世帯へはパンフレット等で周知・案内して、全戸設置を目指す。避難行動要支援者マップを作成し、地域支援者と合わせて把握する。
6位	避難行動訓練	地震・水害時の夜間を想定。避難行動要支援者の避難誘導講習会を開催。福祉委員が把握している要支援者を確認し、地域支援者と共に、避難訓練で実際に一緒に避難する。

地区防災計画づくりに参加した皆さんの声



防災への意識が高まった気がする。「できることからやっていく」という言葉が心に残っています。



他人事で考えていた防災だったけど、自分事として考えられるように。でももっといろんな世代が参加できたらよかったなあ。



今までの防災活動は、計画されていたものに参加するだけだったけど、自分たちの意思で計画をつくったことが楽しかった。



今まで防災訓練も「めんどくさい」と思っていたけど、今回参加して自分の意識が変わり、本当によかったと思う。

作成：東端町内会 協力：認定 NPO 法人レスキューストックヤード、安城市